

平成 22年 5月 11日現在

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19730117

研究課題名(和文) 明治政治思想史における法秩序論の位相

研究課題名(英文) Legal Order in the Meiji Political Thought

研究代表者

菅原 光(SUGAWARA HIKARU)

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：90405481

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：思想史、日本史、政治思想史、政治学、法秩序論

## 1. 研究計画の概要

本研究は、明治政治思想史を「法」ないしは「法秩序」という視点から捉え直し、明治時代の秩序論の位相を明らかにすることを目的としている。これは、リチャード・H. マイニアが「驚くべきことに、日本の伝統思想と西洋法思想の基本的な哲学的対決を論じたものは殆どない」(『西周の法概念論』『法哲学年報』(一九七〇年))と指摘して以来、依然として積み残され続けてきた課題に答えるものでもある。特に、明治前期に活躍し、「功利主義」的政治観を共有していた福澤諭吉と西周、両名の思想を中心的な考察対象とし、彼らの「法」理解と「功利主義」的な政治観との連関を解明するということが、当初からの研究計画である。

## 2. 研究の進捗状況

西周を中心にして明治時代の法秩序論を研究してきた。

西が法に強い関心を持った法思想家であったことは確かだが、検討の結果、西周の思想形成と法家思想との間には従来言われてきたような有意な関係は見られず、儒学には儒学ならではの法概念が存在すること、儒学の発想の中から法についての議論を読みとることが可能であることが明らかになった。

特に法源認識について注目しつつ、儒学的な法概念についても調査した。明らかになったのは以下の二点である。第一に、それぞれの思想家ごとに、法源として想定されるものは様々であったということである。例えば、権力者の命令を法源として認

識する発想と、慣習を法源として認識する発想とが同時代において両立していた。第二に、以上のような相違にも関わらず、「理」や「天」などといった観念は、決して法源として認識されることがなかった。一般に、近世の思想世界においては、「理」や「天」といった観念が重要な役割を果たしていたと言われてきたが、あくまでも現実の秩序を形成し維持するためのものとしては、それらは想定されていなかった。

同様に、「理」や「天」などと関連づけて理解され続けてきた、西洋の自然法思想もまた、現実の秩序形成を考察する時には、明治前期において必ずしも重視されていなかったと言え得る側面も明らかになった。「天」観念や自然法観念が現実において力を持ち得ないのではないかとする疑問がそこにはあった。例えば西周においては、秩序は現実に力を持つべきものとして考えられ、それゆえ、慣習法的秩序を高く評価することになった。このような、慣習や旧慣に対する肯定的なまなざしは、明らかに儒学の影響下に形成された秩序観であった。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

史料の読解、考察、またその途中成果荷関する学会発表などは予定通りに進んでいるものの、津和野での史料調査時に、協力を要請していた史料保持者である松島弘氏の家庭の事情により、急遽お会いすることができなくなり、所定の目的を果たせなかった。また、諸般の事情から、当初 21

年度にも予定していたライデン大学への史料調査出張を行うことができなかった。

#### 4. 今後の研究の推進方策

上記した史料調査の遅れは、22年度に調査を実施することで遅れを取り戻すこととしたい。8～9月にかけてライデン大学出張を、10～12月の適切な時期に津和野出張を行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①菅原光、儒学と西洋思想の受容——荻生徂徠と西周、大航海、67巻、80-87頁、2008年、査読無し、
- ②菅原光、西周の法思想——法と秩序をめぐる考察、北東アジア研究、第14・15合併号、55-71頁、2008年、査読有り

[学会発表] (計3件)

- ①菅原光、近代日本「哲學」的發明、國際學術研討會「傳統中國形上學的當代省思」2009年5月8日、臺灣大學。
- ②菅原光、明治前期における秩序問題への関心——西周を中心に、2008年度政治学会総会・研究大会、2008年10月12日、関西学院大学。
- ③菅原光、明治時代における道德論の浮上と対抗、第七回日韓国際學術會議、2008年6月20日、高麗大学。

[図書] (計2件)

- ①菅原光『西周の政治思想——規律・功利・信』2009年、270頁、ペリかん社。
- ②荻部直ほか編、日本思想史ハンドブック、2008年、新書館、菅原光、明六社の思想家たち・もっと知るために 明治、116-117、202-203頁。